



トップ直撃インタビュー

佐浦「浦霞」

佐浦弘一社長

「浦霞」が好調だ。「純米夏酒 浦霞」が好調だったほか、「特別純米酒 ひやおろし 浦霞」が好スタート。今年は、定番商品のほか、季節商材に注力している。コロナ禍が長期化する中で、家飲みも一段落しているが、ここで季節性のあ

る商材をフックに弊社商品に興味を持っていただきた。宮城県産酒造好適米「蔵の華」を使用し、爽やかな香り心地良い酸味が特長

「純米原酒につけた浦霞の梅酒」は、宮城県産の梅を使用し、控えめな甘さと心地よい酸味でさっぱりとした味わいのこだわりの造りとなっている。輸出も行っており、特にイギリスで好評だ。あわせて「浦霞のゆず酒」や、食べる宝石を

また、新たな領域として「ハーブのリキュール カモミール」を宮城県内で提案している。弊社矢本蔵のある東松島市・赤坂農園内の「香りのハーブ園」で有機栽培したカモミールを100%使用し、低アルコールタイプの純米酒に漬けたんだ和のハーブリキュール。この4種をじっくりと育成し、日本酒の楽しみ方をリキュールの視点から提案していきたい。

また、浦霞を代表するロングセラーであり、弊社商品をみなさんに知ってもらうきっかけになった商品。発売当時、吟醸酒は鑑評会用のみでほとんど市販されることはなかったが、口コミ等で徐々に広まり、各種鑑評会で入賞、昭和50年頃からは地酒ブームもあり雑誌等で取り上げられ、次第に全国的に広まった。50周年を前に、一昨年にはびん詰設備を新調し、よりフレッシュ感を増した味わいにブラッシュアップし時流に合

合わせた進化を続けている。「浦霞」のこれまでのあゆみを発信するとともに、遊び心を交えたPRを考えており、情報発信に力を入れていきたい。

今年、定額で販売するほか、冬場の「しほりたて」や日本名門酒会を通じた限定酒を展開するが、SNS等を通して魅力を発信していく。

「浦霞」は、昭和40年頃に浦霞の吟醸酒から分離され、優れた吟醸用酵母として後に日本醸造協会に登録された「きょうかい12号酵母」を使用したもの。昭和から平成、令和へ移り変わったタイミングで12号酵母を使用した酒造りを復活。宮城県産酒造好適米「蔵の華」を使用し、爽やかな香り心地良い酸味が特長

「浦霞」は、昭和40年頃に浦霞の吟醸酒から分離され、優れた吟醸用酵母として後に日本醸造協会に登録された「きょうかい12号酵母」を使用したもの。昭和から平成、令和へ移り変わったタイミングで12号酵母を使用した酒造りを復活。宮城県産酒造好適米「蔵の華」を使用し、爽やかな香り心地良い酸味が特長

また、新たな領域として「ハーブのリキュール カモミール」を宮城県内で提案している。弊社矢本蔵のある東松島市・赤坂農園内の「香りのハーブ園」で有機栽培したカモミールを100%使用し、低アルコールタイプの純米酒に漬けたんだ和のハーブリキュール。この4種をじっくりと育成し、日本酒の楽しみ方をリキュールの視点から提案していきたい。

また、浦霞を代表するロングセラーであり、弊社商品をみなさんに知ってもらうきっかけになった商品。発売当時、吟醸酒は鑑評会用のみでほとんど市販されることはなかったが、口コミ等で徐々に広まり、各種鑑評会で入賞、昭和50年頃からは地酒ブームもあり雑誌等で取り上げられ、次第に全国的に広まった。50周年を前に、一昨年にはびん詰設備を新調し、よりフレッシュ感を増した味わいにブラッシュアップし時流に合

合わせた進化を続けている。「浦霞」のこれまでのあゆみを発信するとともに、遊び心を交えたPRを考えており、情報発信に力を入れていきたい。

今年、定額で販売するほか、冬場の「しほりたて」や日本名門酒会を通じた限定酒を展開するが、SNS等を通して魅力を発信していく。

また、浦霞を代表するロングセラーであり、弊社商品をみなさんに知ってもらうきっかけになった商品。発売当時、吟醸酒は鑑評会用のみでほとんど市販されることはなかったが、口コミ等で徐々に広まり、各種鑑評会で入賞、昭和50年頃からは地酒ブームもあり雑誌等で取り上げられ、次第に全国的に広まった。50周年を前に、一昨年にはびん詰設備を新調し、よりフレッシュ感を増した味わいにブラッシュアップし時流に合

また、浦霞を代表するロングセラーであり、弊社商品をみなさんに知ってもらうきっかけになった商品。発売当時、吟醸酒は鑑評会用のみでほとんど市販されることはなかったが、口コミ等で徐々に広まり、各種鑑評会で入賞、昭和50年頃からは地酒ブームもあり雑誌等で取り上げられ、次第に全国的に広まった。50周年を前に、一昨年にはびん詰設備を新調し、よりフレッシュ感を増した味わいにブラッシュアップし時流に合

また、浦霞を代表するロングセラーであり、弊社商品をみなさんに知ってもらうきっかけになった商品。発売当時、吟醸酒は鑑評会用のみでほとんど市販されることはなかったが、口コミ等で徐々に広まり、各種鑑評会で入賞、昭和50年頃からは地酒ブームもあり雑誌等で取り上げられ、次第に全国的に広まった。50周年を前に、一昨年にはびん詰設備を新調し、よりフレッシュ感を増した味わいにブラッシュアップし時流に合

また、浦霞を代表するロングセラーであり、弊社商品をみなさんに知ってもらうきっかけになった商品。発売当時、吟醸酒は鑑評会用のみでほとんど市販されることはなかったが、口コミ等で徐々に広まり、各種鑑評会で入賞、昭和50年頃からは地酒ブームもあり雑誌等で取り上げられ、次第に全国的に広まった。50周年を前に、一昨年にはびん詰設備を新調し、よりフレッシュ感を増した味わいにブラッシュアップし時流に合

また、浦霞を代表するロングセラーであり、弊社商品をみなさんに知ってもらうきっかけになった商品。発売当時、吟醸酒は鑑評会用のみでほとんど市販されることはなかったが、口コミ等で徐々に広まり、各種鑑評会で入賞、昭和50年頃からは地酒ブームもあり雑誌等で取り上げられ、次第に全国的に広まった。50周年を前に、一昨年にはびん詰設備を新調し、よりフレッシュ感を増した味わいにブラッシュアップし時流に合

【宮城】コロナ禍も3年目。2022年は飲食店や人流規制が徐々に緩和され、観光などに人が戻り始めている。イベントが再開される地域もあり、飲食の規制は伴うものの、かつての賑やかさが取り戻されつつある。宮城県・塩竈市に本社蔵を構える清酒「浦霞」製造元・佐浦では、季節商材をフックにラインアップの魅力発信を強化。加えて、来年は「浦霞」が発売50周年を迎える。近況や今後の取り組みについて13代目当主の佐浦弘一社長に話を聞いた。

聞き手 柴田明子



得意先訪問や百貨店の試飲販売も徐々に再開しつつある中で、消費者と触れ合える販売機会等を大切にしながら売り上げ増加を目指したい。商品面では、季節商材の提案を強化するほか、スパークリング清酒やプレミアム品の開発準備を進めている。

創業1724年(享保9年)で、宮城県・塩竈市に本社蔵、同・東松島市に矢本蔵を構える。「浦霞」の酒銘は、鎌倉時代の武将であり歌人として知られる源実朝が古来より歌枕の地であった塩竈の景色を詠んだ歌から命名したという。塩竈の浦に霞がかつたやさしく美しい景色が表現されており、ほのぼのとした風景が浮かんでくるような味わいを目指して醸されている。江戸時代後半には鹽竈神社の御神酒酒屋となり酒を醸し現在に至る。品格のある酒(Classic and Elegant)を目指し、日本酒が持つほど良い米の旨み、味と香りの調和のとれた、まろやかで上品な味わいが特長。「本仕込 浦霞」「純米酒 浦霞」「純米吟醸 浦霞」や季節限定、リキュール、宮城県内限定商品な様々な商品を展開している。